

ぼくの家は動物園

小重こしげ 蒼真そうま

ぼくは、四人家ぞくです。よく、動物みたいだなと思うことがあります。そんな家ぞくをしようかいたします。

ぼくのお父さんは、「にわとり」です。それは、目がくりくりして大きくて、足の形がにわとりにそっくりだからです。にわとりお父さんは、電気の工事やさんで、たくさんの家を直しています。スポーツがとくいで何でもできるのがかっこいいです。だけど、家ぞくで一番トイレが長いです。

ぼくのお母さんは、「うさぎ」です。それは、うさぎのように前ばが大きくてかわいいからです。うさぎお母さんは、お花やさんで、お花を売っています。ぼくが、

「これ、買って。」

と言うと、

「だめ。」

としか言いません。だから、「いいよ」の三文字を言わせるのは、なかなかむずかしいです。

ぼくの妹は、「白ねこ」です。それは、ねこのような動きを

よくするからです。白ねこ妹は、ほいく園に行っている五才で、元氣いっぱいです。氷おにがすきで、よくいっしょに遊んでいます。だけど、何でも自分のものだと思っているので、まにかいじゅうのように見えます。

ちなみにぼくは、魚です。それは、口がずっと魚のようにあいているからです。本当は、さるがいいなと思うけれど、みんなが魚と言ってきます。

こんな動物園みたいににぎやかなのが、ぼくの家ぞくです。みんなの話し声が大きくて、テレビの音が聞こえないので、ぼくの家テレビはほとんどついていません。それから、学校でいやなことがあっても、家に帰って、みんなで話したり、あそんだりすると、わすれることができます。家ぞくで一番楽しいあそびは、色おにです。みんなであそぶと、もり上がって、さい後にはあせびっしりになってしまいます。これからも家ぞく四人で、楽しく、なかよくすごしていきたいです。

ぼくの大すきな三人、いつもありがとう。